

Japan Society of Civil Engineers
International Activities Center

委員会活動

水工学委員会活動紹介

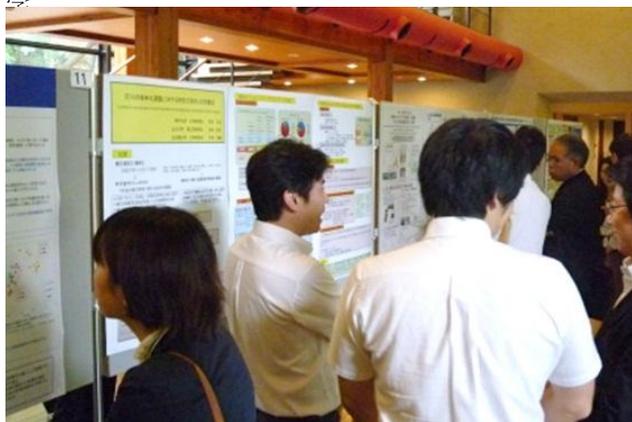


水工学委員会 委員長
京都大学 中北 英一

水工学委員会の前身は、1940年に土木学会で2番目の調査委員会として発足した水理公式集調査委員会であるが、本委員会は水理公式集を刊行した後、1942年に解散している。その後1946年に再結成され、1949年に水理公式集第1刷を刊行した後、常置委員会としての水理委員会が発足した。1955年に海岸工学委員会が独立し、2003年には諸課題の多様化に対応すべく水工学委員会と改称している。河川や水資源に関する諸課題の調査・研究および、その成果の発信は、本委員会に加え、専門分野別に構成される4部会、および分野横断的な小委員会によりなされている。以下に、活動の一部を紹介する。

◆水工学講演会

1956年、土木研究所において水理研究会講演会として22編の研究発表があったのが始まりである。その後、水工学に関わる多様な研究発表がなされてきたが、近年の情報公開、計測・解析技術の革新、研究環境整備により、テーマは年々多様化している。第42回を鳥取大学で開催した後は東京以外で開かれることも多くなった。第59回大会は2015年3月に早稲田大学



河川シンポジウム恒例のポスターによる研究発表

で開催された。317編の投稿があり、62名の編集委員を含む206名の査読を経て、249編が採択された。

◆河川技術シンポジウム

河川に関わる研究発表と総合討論を通じ、河川技術の発展と普及を目的としている。そのため、官・学・民の連携、従来の河川工学を超えた学際領域への展開を志向しつつ、現場を重視しているのが特徴である。2015年6月に第21回目となるシンポジウムを例年通り東京大学で開催した。499名の参加者を交えた成果発表および議論が行われ、河川技術論文集も合わせて発刊した。

◆水シンポジウム

水が自然や人に与える恩恵と諸問題について、市民・企業・学会・行政が意見交換を行いつつ連携を深め、「水と人との好ましい関係」を全国に発信することを目的とし、1996年に鳥取県において第1回が開催されたのが始まりである。2015年は福井県にて8月に開催した(第20回)。基調講演、総合討論、子供達による発表などが行われ、参加者数は550名であった。



保育園児の演奏と共に日頃の川との関わりが紹介された

開催報告

WECC2015 サイドイベント「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」国際シンポジウム（災害軽減と環境保全の事例）/第9回災害リスク管理に関するジョイント国際シンポジウムの報告

河川技術に関する国際シンポジウムが、世界工学会議のサイドイベントとして2015年11月28日に国立京都国際会館（京都市）で、10名の講演者を招き、約100名の参加者（内50名の外国籍）をもって開催された。当シンポジウムは、世界の河川技術に関する情報交換と普及活動を目的として、実行委員会（委員長：玉井信行 東大名誉教授）を組織し、日本工学会、世界工学団体連盟、日本河川・流域再生ネットワーク、日本建築学会、土木学会の共催により、日本学術会議、国土交通省、アジア河川・流域再生ネットワークの後援を受けて、講演を中心とした2つのセッションと、パネルディスカッションで構成されたプログラムにより実施された。

開会式では当シンポジウムの趣旨に基づいて、主催・共催・来賓のそれぞれの立場で挨拶が行われた。第1セッションでは河川・水域に関する災害をテーマに、基調講演として磯部学長（高知工科大）より津波被害を減災するための海岸構造物の設計要件について講演がなされた。続いて防災・減災・復興に対する日本のノウハウを災害に脆弱な途上国へ適応する方法（三村副局長・JICA）、日本の戦後治水政策の中で水・土砂災害の防止対策における投資効果の検証（塚原教授・九大）、西アジア乾燥地帯に位置する塩湖の水量減少の状況（Chavoshian 所長・イラン UNESCO 地域センター）、台湾の

台風豪雨による土砂・水災害の事例分析と災害予測システムの開発（Lai 上席研究員・台湾成功大）について、それぞれ講演をいただいた。第2セッションでは河川環境の保全・開発に関する5つの講演があった。オランダにおける異常気象下の治水対策（デルタプログラム）の概要や水力の利用方法（Stroeks 科学専門員・オランダ大使館）、治水と水環境を通じた東京の都市河川計画の歴史的な変遷（土屋理事・リバーフロント研究所）、河口堰の設置に伴い発生した治水と環境保全のバランスの検証（Jang 教授・韓国大真大）、「水と緑」をテーマにした持続可能でクリーンな都市づくり（Wu 副市長・台湾高雄市）、Chao Phraya 川の舟運と河岸開発の過去から現在までのビジネス展開（Pichaironarongsongkram 会長・タイ Chao Phraya Express Boat）について講演がなされた。次に、玉井委員長を司会に4名のパネリストを交えて、セッション1と2の講演内容を踏まえて「気候変動下における河川技術革新—健全な水循環と持続的な社会の視点から—」について討論が行われた。最後に、パネディスカッションを含めたシンポジウムの取りまとめとして、玉井委員長より気候変動下の壊滅的な土砂・水災害などのリスク管理と河川環境の保全の両立を目指した環境災害リスク管理の概念が提案され、主催者の閉会宣言で当シンポジウムは閉幕した。

なお、当シンポジウム実行委員会が作成した予稿集と発行予定の報告書は、逐次以下のウェブサイトダウンロードが可能となる（<http://river-innovation.net/>）。

【記：WFEO 災害リスク管理委員会事務局幹事補 木村延明（九州大学）】



講演者と会場の様子



シンポジウム終了後の集合写真 磯部雅彦前会長（右）

注）「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」国際シンポジウム実行委員会撮影



※本シンポジウムは世界工学会議（WECC2015）の開催行事の一環として開催しています。
※本シンポジウムは公益財団法人河川財団による河川整備基金の助成を受けています。

IEB-JSCE Joint Seminar on Advances Bridge Engineering 実施報告

Bangladesh, 以下 IEB)と土木学会 (以下 JSCE) 間の橋梁工学に関するジョイントセミナー (IEB-JSCE Joint Seminar on Advances Bridge Engineering)が 2015 年 8 月 22 日にダッカ (バングラデシュ) において開催された。セミナーでは 12 編の論文が発表され約 80 名の参加者があった。日本側からは今後バングラデシュで建設が予定されている合成トラス橋や鋼箱桁橋の研究が紹介された。

今回のジョイントセミナーは、同時開催された国際会議 IABSE-JSCE Joint Conference on Advances Bridge Engineering-III (2015 年 8 月 21-22 日開催)のオーガナイズドセッションの一部としての役割も担った。

この会議は国際構造工学会(IABSE)と土木学会(JSCE)の後援のもとに 5 年毎に開催されている橋梁工学に関する国際会議であり、バングラデシュの Padma 川に架橋された Hardinge Bridge (トラス橋、橋長 1.8km) の建設 100 周年を記念して開催された。Hardinge Bridge は 1971 年の独立戦争時に空爆により 1 連が落橋したが、日本政府の援助で復興して

いる。そのような背景から本会議の副題は “Towards owning a resilience infrastructure” とレジリエンスがテーマとなっている。

1 日目のオープニングセレモニーではバングラデシュの科学技術省大臣をメインゲストとして迎え、日本側は遠山慶氏 (JICA バングラデシュ事務所) がスピーチを行った。続いて基調講演セッションでは Hardinge Bridge の建設時の設計コンサルタントの Rendel Ltd.(英国)より Tappin 氏が Hardinge Bridge の建設当時の設計および工事概要について講演を行い、バングラデシュからは Choudhury 学長 (Univ. of Asia Pacific)、日本からは長井正嗣名誉教授 (長岡技術科学大学) が各々自国の橋梁技術の発展について講演を行った。さらに夜のバンケットには在バングラデシュ日本大使館より佐々原秀史一等書記官に特別ゲストとしてご出席いただき、日本とバングラデシュ間の協力関係についてスピーチをいただいた。

2 日目の基調講演セッションでは春日昭夫氏 (三井住友建設) がバタフライ・ウェブ橋について、上田多門教授 (北海道大学) がコンクリート構造物の維持管理に関する講演を行った。

会議全体のクロージングセレモニーでは、バングラデシュの科学技術省大臣、財務大臣、鉄道大臣が参加した。11 か国から総勢 334 名が参加した会議は成功裏に幕を閉じた。

【記：複合構造委員会委員長 奥井義昭 (埼玉大学)】



ジョイントセミナーでのセッションの様子



基調講演を行う春日昭夫氏

イベントカレンダー

- 2016年3月21-22日
第2回 MES-JSCE ジョイントシンポジウム
(ミャンマー ヤンゴン)
- 2016年3月25-27日
アジア土木学会連合協議会 (ACECC) 第30回理事会
(インド ニューデリー)
- 2016年4月8日
土木学会グローバルビジョン講演会 2016 建設産業のグローバル戦略「建設産業のM&Aに学ぶ(AECOM社)」(東京 土木学会講堂)
<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/98>

お知らせ

- 土木学会誌の特集記事の概要をJSCEのWebsite(英語版)にアップしました。<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No.44が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newletter.htm>

配信申込み

国際センター通信配信の申し込みは以下のURLよりお願いいたします。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いたします。

〈国際センター通信配信希望者登録フォーム〉

- ・日本語版 <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>
- ・英語版 <http://www.jsce-int.org/node/150>

掲載記事募集します！

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。文字数は800字程度で和文または英文でご投稿ください。

〈記事投稿の詳細はコチラ〉

<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>

国際センターFacebook

国際センターの英語版Facebookです。直近の国際センターの活動について紹介していますので、ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/JSCE.en>

編集後記

2015年度最後の国際センター通信の発行となりました。皆様、2015年度はどのような年となりましたでしょうか。私は歳を重ねるたびに時間の速度が上昇しているようで、あっという間に3月で、光陰矢の如しです。新年度である4月からは「少年老い易く学成り難し」を胸に、新たな研究や技術開発なども果敢にチャレンジしていきたいと思っています。
(H.I.)

〈ご意見・ご質問〉 JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。